

語り手 大原寿美子さん(明治40年生まれ)

昭和60年8月16日収録

あらすじ

昔。雪の消えかけたころを「春ばる」といい、毎年田舎では木を樵りに行っていた。

若い者二人が春ばるに行こうと山に出かけ、木を伐っていると昼になったので、昼飯を食べ終わって一人の男が昼寝をした。

もう一人の男が見ていると、アブが寝ている男の鼻の中に入ったたり出たりを繰り返している。起こすと「いい夢を見た」と言うので聞いたところ、「この山にある白い樅の根元を掘ると金瓶が出てくる」とい夢を見た」と言ひ。

夢買い長者

(八頭郡智頭町波多)



イラスト・福本隆男

欲ばった男にはそれなりの…

それを聞いた男は気になったので、仕事から帰ら、半分くれとは言わない。ついでに山へ行き、探したので、仕事中から帰ら、半分くれとは言わない。ついでに山へ行き、探したので、仕事中から帰ら、半分くれとは言わない。ついでに山へ行き、探したので、仕事中から帰ら、半分くれとは言わない。

解説

だから欲ばってはいけない。そればかり。 3、友人にその夢を持って宝物を(黄金)を掘り出して長者になる。

どなたにもおなじみの話である。閑敬吾『日本昔話大成』の分類では、本格昔話、運命と致富の中に「夢買長者」として次のように登録されている。

一五八 夢買長者

- 1、二人が旅に出る。一人が昼寝する。(a) 蜂(蛾・熊蜂)が飛んで来て、鼻に入って再び飛んで行く、または(b) (二鳥取短期大学教授) (水曜日に掲載)